

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K02776

研究課題名（和文）複モード・テキストの学習を教科横断的に支援する学習者用ガイドブックの開発

研究課題名（英文）A development of a guidebook for learners supporting cross-curriculum multimodal learning

研究代表者

奥泉 香 (Okuizumi, Kaori)

東京学芸大学・教育学部・特任教授（種）

研究者番号：70409829

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、学習者が文章だけでなく画像やグラフといった異なる記号間の関係から意味を読み解き、発信する力を育成できるよう、学習者用ガイドブックの開発を行った。これを国語科を基盤として教科横断的に活用できるよう、複数教科の教科書に採録されている画像やグラフ等を、ジャンル概念を援用して再整理し、七つのジャンル・三つのグループに分けて、機能文法の用語をメタ言語として用いた活用ポイントの解説を施して開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、複モード・テキストを教科別ではなく、ジャンル概念を用いて教科横断的に同種類の機能を果たす画像やグラフ等を分類し、それに沿って活用方法を解説した点である。ジャンル概念及び複モード・テキストの分類については、この分野の代表的研究者シュレップゲラル(Schlepperegell, 2011)を援用した。また、ガイドブックの活用方法の解説には、メタ言語として、選択体系機能理論を基盤としたSF-MDA(systemic functional multimodal discourse analysis)の枠組みを用いた。これにより、言語との往還性を意識した複モードの学習が促進される。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to develop a guide book to help students to read and write multimodal texts. We have developed it focusing on Japanese language ability, but which can also be applied to other subjects. As there are many kinds of pictures or diagrams in school textbooks, we analyzed and categorized them into 3 groups and 7 categories using genre theory. We also analyzed school textbooks, adopting Royce's theory of the 6 types of intermodal text-image combinations: 1)Repetition 2)Synonymy 3)Antonymy 4)Meronymy 5)Hyponymy 6)Collocation(Royce, 2007). The result of our analyses showed that there is a significant gap in the text-image combination distribution between the two grade levels: 3rd grades and 4th grades. This kind of gap should be filled with other types of text-image combination materials in our guide book.

研究分野：教科教育学

キーワード：複モード 画像 国語科 ジャンル 機能 教科書 教科横断的

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年学習者は、学校や日常の中で接するテキスト環境の変化によって、文章だけでなく図や写真・表、グラフといった異なる複数の記号間の関係から、意味を読み解き、発信する力が益々必要とされるようになってきている。そしてこういった読み解き・発信の力は、紙媒体においてだけでなく、コンピュータやタブレット端末の画面上等においても益々必要となってきている。こういった状況を受け、本研究では平成28年度～30年度基盤C採択(同研究代表者)で研究・開発した「バイモーダル・テキストの学習を、国語科で体系的に行うための教師用ガイドブック」を基盤として、学習者側に焦点を当て、国語科だけでなく教科横断的に多教科で活用できる学習者用ガイドブックの開発を目指し研究を開始した。

2. 研究の目的

上述の背景を受け、本研究では次の3つの目的(問い)に基づき研究・調査を行ってきた。1つ目は、「複モード・テキストの学習を、国語科教育を基盤としながら、教科横断的に配置・学習させるためには、学習材のどのような再整理や分類が必要なのかといった問い」である。2つ目は、「整理・分類した複モード・テキストの学習内容を、教科横断的・体系的に学習・活用できるようにするためには、どのようなメタ言語を開発・整備していく必要があるのかといった問い」である。さらに3つ目は、これら2つの問いを統合的に探究し、「学習者を支援するためにはどのようなガイドブックの開発や支援が必要となるのかといった問い」である。これらの問いに基づき、小学校・中学校の義務教育期間を対象として研究を行ってきた。

3. 研究の方法

上述の検討・整理を行うため、国語科を中心に複数教科の教科書に採録されている図像やグラフ等の分類・整理を行った。その際教科毎ではなく、教科横断的な活用を図るために、ジャンル概念を導入して、教科全体で必要となる図像やグラフ等の種類を、3つのグループに精選・整理した。このジャンル概念及び3つのグループ分けについては、この分野の代表的研究者シュレツペグラル(Schleppegrell, 2011)を援用した。シュレツペグラルの提唱する3つのグループとは、(1)私的ジャンル(経時的な再話、物語)、(2)事実に基づくジャンル(手順、報告)、(3)分析的ジャンル(因果的説明、説明、論証)である。この3分類を活用して、多様な複モード教材を機能面から分類し、教科横断的に活用できるよう検討・整理を行った。

さらに、上記のジャンルを基に分類・整理した複モード・テキストを、同教科書の周辺頁に配された文章部分との関係においても整理し、教科書教材に採録されている文章と図像との組み合わせのパターンを分類・整理した。この整理・分類には、選択体系機能理論を基盤としたSFMDA(systemic functional multimodal discourse analysis)という談話分析の枠組みを用いた。具体的には、ロイス(Royce, 2007)を援用して次の6種類の組み合わせに分類した。(1)反復関係、(2)同義関係、(3)全体部分関係、(4)反義関係、(5)上位下位関係、(6)共起関係の6種類である。この6種類の組み合わせを示す用語や、この組み合わせを検討・整理するための選択体系機能理論の用語、さらにはジャンルに関する用語を精選して、学習者が複モード・テキストを教科横断的に学習・活用できるようになるために必要なメタ言語を整理した。

4. 研究成果

国語科教科書を中心に析出できた点を報告し、それと関連させて他教科について言及する。小・中学校の国語科教科書について、採択率上位2社を中心に全学年に採録されている図・表・グラフ・写真・地図と、周辺に配された文章との関係性を、上記3「研究の方法」で示した6種類の組み合わせで分類を行った。すると、図1に示すように、小学校では1年生～4年生まで反復関係が圧倒的に多く、次に多い上位下位関係は、3年生に多く採録されていることがわかった。また、ロイスの6分類では分類しきれない組み合わせが、全体の31%あることもわかった。

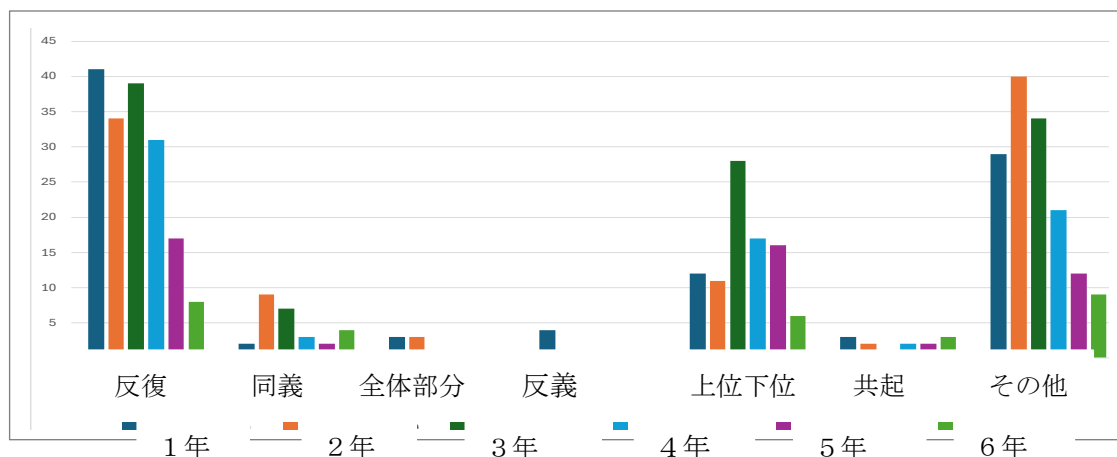


図1. 国語科教科書における図像テキストと文章との組み合わせの割合(学年別)



## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 奥泉香	4. 巻 625
2. 論文標題 メディア・リテラシー教育の受容を経て育成してきた批判的思考力と、「情報生態系」を視野に入れて育成が求められる批判的思考力	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮沢さやか・奥泉香	4. 巻 94
2. 論文標題 「浦島太郎」の国語教科用図書における採録の変遷と各時期における役割－採録形態と表記に焦点を当てて－	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 59-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奥泉香	4. 巻 51
2. 論文標題 母語話者によるマルチモーダル・テキストとしての絵本の意味構築過程の分析：Eye-tracking解析を採用したリーディング・パス分析と問の形成＝解決としての思考過程の分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本体育大学紀要	6. 最初と最後の頁 5011-5012
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 奥泉香, メアリー・メッケン＝ホラリック, レン・アンズワース	4. 巻 91
2. 論文標題 文章と図像との混成型テキストの学習を支援する、メタ言語の体系的導入の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 奥泉香, 土井一生, 田中大裕, 金田富起子	4. 巻 143
2. 論文標題 アニメーション批評の専門家と国語科との連携で批評文を学習する試み ひろしまアニメーションシーズンにおける中学生に焦点を当てたアニメーション教材の活用可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語科教育研究	6. 最初と最後の頁 295-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田島ますみ・佐藤尚子・松下達彦・笹尾洋介・橋本美香	4. 巻 16
2. 論文標題 日本語学術共通語彙の理解度の評価 (大学生と小中学生の学年別比較)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リメディアル教育研究	6. 最初と最後の頁 145-159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下達彦・藤永清乃・須田永遠・武富有香・江頭由美・柿山礼美・片山智子・行田悦子	4. 巻 17
2. 論文標題 複数テキストの利用による問いの広がりと深まり (批判的思考・創造的思考の育成を目指して)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本リメディアル教育学会第17回全国大会発表予稿集	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松下 達彦, 佐藤 尚子, 笹尾 洋介, 田島 ますみ, 橋本 美香	4. 巻 178
2. 論文標題 第二言語としての日本語語彙量と漢字力 : 第一言語と学習期間の影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本語教育	6. 最初と最後の頁 139-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲田 朋晃, 品川 なぎさ, 丸山 岳彦, 松下 達彦	4. 巻 23
2. 論文標題 医学語彙テストの開発と評価	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 専門日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥泉香	4. 巻 第87集
2. 論文標題 国語科において画像テキストから「対人的」意味を 学習する意義と方法的枠組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語科教育	6. 最初と最後の頁 14-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kaori OKUIZUMI	4. 巻 14
2. 論文標題 An analysis of L1 readers' meaning-making processes through producing and answering questions regarding picture books: Eyetracking measurements and interviews	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Language Studies	6. 最初と最後の頁 103-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 奥泉香	4. 巻 No. 585
2. 論文標題 仮想的な対人関係と、記号としての機能や性質を 検討できる学習の必要性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊国語教育研究	6. 最初と最後の頁 28-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池野範男	4. 巻 第4巻第1号
2. 論文標題 社会科実践研究：小学校6年政治単元を事例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本体育大学大学院教育学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 31 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松下達彦・佐藤尚子・笹尾洋介・田島ますみ・橋本美香	4. 巻 22
2. 論文標題 学習者言語が日本語学術共通語彙の理解に与える影響 中国語母語、中朝バイリンガル、韓国語母語、非漢字圏の学習者を比較して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 専門日本語教育研究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 2件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Kaori Okuizumi, Tatsuhiko Matsushita
2. 発表標題 Intermodal Complementarity between Text and Image in Japanese, focusing on Expository Text : Differences by Grade in Elementary School
3. 学会等名 AAAL (応用言語学会) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 篠崎祐介, 奥泉香, 松下達彦, 新井智大
2. 発表標題 高校国語教科書にみる「論理」のあらわれ方 学習指導要領の改訂を受けて
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 奥泉香, 土井一生, 田中大裕, 金田富起子
2. 発表標題 アニメーション批評の専門家と国語科との連携で批評文を学習する試み ひろしまアニメーションシーズンにおける中学生に焦点を当てたアニメーション教材の活用可能性
3. 学会等名 全国大学国語教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松下達彦
2. 発表標題 日本語教育での語彙資源の活用 現状と展望
3. 学会等名 NINJALフォーラム(招待講演)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 藤森裕治編著, 青木伸生, 青山由紀, 奥泉香ほか	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東洋館出版社	5. 総ページ数 233
3. 書名 これからの国語科教育はどうあるべきか	

1. 著者名 照屋一博編, クリスチャン・マティスン, ジョン・ベイトマン, 奥泉香, ハイジ・パーンズ, マイケル・ハリデー	4. 発行年 2022年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 意味がよくわかるようになるための言語学ー 体系機能言語学への招待ー	



1. 著者名 中橋雄, 堀田龍也, 奥泉香, 水越伸, 後藤康志, 森本洋介, 宇治橋祐之ほか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 230
3. 書名 メディア・リテラシーの教育論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松下 達彦  (Matsushita Tatsuhiko)  (00255259)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授   (62618)	
研究分担者	池野 範男  (Ikeno Norio)  (10151309)	日本体育大学・児童スポーツ教育学部・教授   (32672)	2022年4月1日まで。

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 文章と画像との混成型テキストの学習を支援する、メタ言語の体系的導入の試み - オーストラリアン・カリキュラム2021最終版に向けた取り組み事例から -	開催年 2021年～2021年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オーストラリア	オーストラリアンカソリック大学		